

第6表. 徒長枝の剪去による初期防除

調査月日	処 理	調査葉数	健全葉率	罹 病 程 度					落 葉 率
				0.5	1	2	3	4	
6月23日	剪 無 剪 去	349.2	65.0	31.4	2.9	0.7	—	—	—
		320.8	28.4	38.9	17.3	14.5	0.8	0.1	—
7月25日	剪 無 剪 去	557.0	50.7	26.8	14.4	4.9	1.8	0.9	0.5
		580.4	17.6	38.2	23.0	11.5	4.2	1.3	4.1

注. 1. 残存徒長枝数……剪去区 1樹当り 19.6本
無剪去区 " 97.2本

2. 罹病程度……第4表注参照.

3. 数値は5樹平均.

調査結果は第6表の通りである.

第6表より、6月23日の調査では剪去区は無剪去区に比べ健全葉が多く、また罹病の程度も一葉当り斑点数が5以下の軽度のものが若干見られた. 一方、無剪去区では罹病葉も多く、罹病の程度も一葉当り斑点数が6~30のものが多数みられ、激発の様相を示していた. この傾向は7月25日の調査においても同様であった.

これらの試験観察から、徒長枝の剪去による越冬病斑の除去は、初期発生の防止の効果が明らかに認められる.

以上の1・2の試験の結果、本病の総合防除の一環として、前年の不要な徒長枝を全く剪去するとともに、P C P—Na 加用石灰硫黄合剤を休眠期（芽出し10日前）に散布することが初期発生防止に効果的な方法であると考えられる.

レタスの作型別播種期に関する試験

相 原 四 郎・渡 辺 栄 一

(宮城県農試)

1. は し が き

レタスの需要は年々増加しており、当県においても生産の拡大と、周年化が要求されるようになり、また一方ビニールトンネルあるいはビニールハウスの周年利用の一環としてレタスの栽培が大いに考えられるが、レタスの花芽分化・抽苔は日照時間に関係なくいずれも高温が原因しており、又品種間に於いても異なり、栽培上播種時期及び品種の選定が最も大切であると考えられる. こうした観点にたって一連の作型に於いて適当した品種や播種時期等の栽培技術の確立を目標にして検討を行っているが、現在まで実施した品種と播種期の関係について取りまとめ報告する.

2. 試 験 結 果

1. 春蒔きにおける品種対播種期試験(昭和36年度)

(1) 目的と方法

春蒔きにおける播種期と生育・抽苔・腐敗等との関係

を検討し、品種の播種適期や晩播限界を知る目的で4品種を供用し、2月から5月まで毎月10日に播種し、1区40株の1区制で実施した. 育苗日数1カ月、途中1回移植、本圃では畦巾60cm、株間30cmとし、施肥量は1アール当り窒素2.5kg・リン酸1.8kg・加里2.5kg他に堆肥400kg施与した.

(2) 試験の結果と考察

成績の概要は第1表に示す通りであり、何れの品種においても播種期の遅れるにつれて収穫率が低下し、5月10日播種ではウエヤヘットの52.5%を除いて何れの品種も収穫不能であった. 抽苔においても生育の後半が高温期にあたる程短い日数で抽苔し、品種間においてはニューヨーク・インペリアル847が抽苔が早く、グレートレークス54号が各播種期共10日前後おそい. 結局播種期の遅延に伴って結球期が高温に遭遇し、そのため球内抽苔・結球不良・腐敗・完全抽苔等が増加してゆき収量は低下し、のみならず品質の面でも不良化する.

以上の結果から結球性の品種では3月中旬、半結球性

第1表. 播種時期と収穫・抽苔等との関係(1961)

播種期	品 種	項 目	収 穫 最 盛 期	結 球		抽苔時期	下 物 (率)	腐敗株 (率)	抽苔株 (率)	上 物 (率)
				葉数(枚)	重量(g)					
二月十日播	インペリアル グレート ニヨーク ウエヤヘッ	847 54 ク ド	月 旬	41	820	月	—	6.7	—	93.3
			6. 中	47	1,120	—	—	13.3	—	86.7
			6. 下	43	800	—	—	13.3	10.0	76.7
			6. 上	31	204	—	—	—	—	100.0
三月十日播	インペリアル グレート ニヨーク ウエヤヘッ	847 54 ク ド	6. 下	40	695	7. 上	13.3	10.0	—	76.7
			7. 上	44	920	7. 中	10.0	13.3	—	76.7
			6. 下	40	650	6. 下	20.0	—	10.0	70.0
			6. 中	43	200	—	12.5	—	5.0	82.5
四月十日播	インペリアル グレート ニヨーク ウエヤヘッ	847 54 ク ド	6. 下	41	620	7. 中	13.3	36.7	—	50.0
			7. 上	31	650	7. 下	33.3	20.0	20.0	26.7
			6. 下	37	280	7. 中	6.7	20.0	53.3	20.0
			7. 上	39	180	—	13.3	10.0	16.7	60.0
五月十日播	インペリアル グレート ニヨーク ウエヤヘッ	847 54 ク ド	—	—	—	8. 上	46.7	20.0	33.3	—
			—	—	—	8. 中	33.3	40.0	26.7	—
			—	—	—	8. 上	6.7	33.3	60.0	—
			7 上	35	145	7. 下	10.0	—	37.5	52.5

品種は4月中旬が当地方平坦部における晩播の限界と考えられるが、ニューヨーク等の抽苔の早い品種は晩春播きの品種としては不適當であると考えられる。

2. 夏蒔播種期試験（昭和35年度）

(1) 目的と方法

レタス栽培の制限要因として高温があるが、夏季から秋にかけての栽培に当たっての播種適期・早播限界等を知る目的で3品種を供用し、7月15日から8月15日まで10日間毎に4回に亘って播種した。

1区30株の1区制，畦巾・株間は結球性品種で60cm×30cm，半結球性品種は60cm×25cm，施肥量は1アール当り窒素3.0kg・磷酸1.8kg・加里2.6kg，他に堆肥300kgを施与した。

(2) 試験結果と考察

成績の概要は第2表に示すように、何れの品種も8月5日播種が最も良い成績を示した。

グレートレイクス 118号は各播種期共に抽苔はなかったが、ニューヨーク 515号・ホワイトボストンは播種期が早まる程抽苔が多く、特にニューヨーク 515号が非常に高い抽苔率を示した。

これらの成績より本県平坦部露地栽培では結球性の品種の播種適期は8月上旬であり、且つ早播きの限界であると考えられ、中旬以降の播種は抽苔の恐れは無いが結球性の品種では、霜害のため腐敗が多くなる。

半結球性品種は7月下旬から8月中旬までが実用性のある播種期と考えられる。

第2表. 播種時期と収獲・抽苔等との関係(1960)

播種期	品 種	項 目	収 穫 期 最 盛	結球重量 (g)	抽苔時期	下 物 (率)	腐 敗 株 (率)	抽 苔 株 (率)	上 物 (率)
七月十五日	ホワイトボストン ニユーヨーク 515 グレイトレイクス 118		9. 下 — 10. 中	158 — 1,150	9. 下 9. 下 —	12.1 — 23.3	— — 30.0	30.8 100.0 —	57.1 — 46.7
七月十五日	ホワイトボストン ニユーヨーク 515 グレイトレイクス 118		9. 下 10. 中 11. 上	164 425 860	10. 中 10. 中 —	13.0 — 20.0	— — 24.1	15.0 93.9 —	72.0 6.1 55.9
八月五日	ホワイトボストン ニユーヨーク 515 グレイトレイクス 118		10. 中 11. 中 11. 中	192 806 890	— — —	12.0 22.2 13.5	— 2.8 8.5	— — —	88.0 75.0 78.0
八月十五日	ホワイトボストン ニユーヨーク 515 グレイトレイクス 118		11. 上 — —	130 — —	— — —	10.0 45.0 —	— 55.0 —	— — —	90.0 — —

第3表. 播種時期と収穫等との関係

品 種	播 種 期	項 目	収穫最盛期	結 球		未 結 球 (率)	腐 敗 (率)	寒 害 (率)	下 物 (率)	上 物 (率)
				葉 数	重量(g)					
グレイ イ 54 トレ	9. 10 20	5. 下	5. 下	37	880	—	5.5	—	16.7	77.8
				26	860	3.3	—	—	—	96.7
	10. 1 10 20	"	"	34	890	2.8	—	—	—	97.2
				25	907	2.7	—	—	5.6	91.7
				32	890	5.6	—	5.6	8.3	80.5
イン ペ 847 リア ア	9. 10 20	5 中下	5 中下	24	600	—	12.5	—	12.5	75.0
				37	700	1.9	7.4	—	9.2	81.5
	10. 1 10 20	"	"	37	740	—	3.3	—	16.7	90.0
				34	713	—	—	—	13.3	86.7
				36	673	—	2.8	—	22.2	75.0

品種的にはニューヨーク 515号は夏蒔き栽培には適していないと思はれる。

3. 秋蒔播種期試験 (昭和36年～37年)

(1) 目的と方法

冬越し春どりの実用性並びに播種期検索を目的として、結球性の2品種を供用し、9月10日より10月20日まで10日間隔に5回に亘って播種検討した。

1区16株の3区制、畦巾75cm・株間35cm、施肥量は窒素2.5kg・燃酸1.8kg・加里2.5kg、他に堆肥200kgを施与した。

(2) 試験の結果と考察

成績の概要は第3表に示す通りで、両品種共に何れの播種期でも相当良い成績を示しており、本県平坦部の無積雪地帯において秋蒔冬越栽培が充分実用的に成り立つことが判明した。

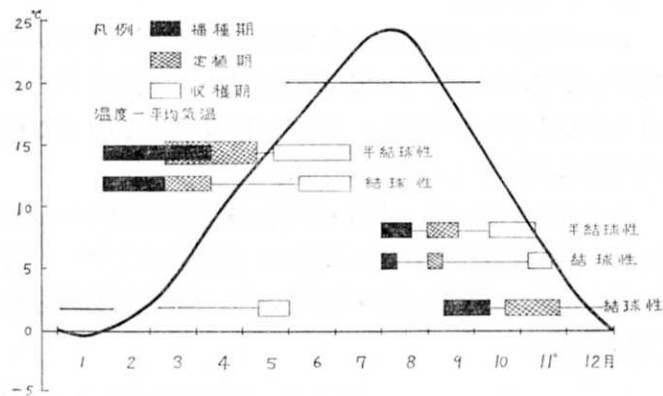
播種期について見ると9月10日と10月20日播種は不良株や腐敗株が若干多く収穫率が低下しているが、他の播種期間においては大きな差が認められず何れも良い成績を示しており、越冬春どり栽培の播種の適期は9月中旬から10月上旬までと考えられる。

本試験における収穫の最盛期は5月下旬であるが、春

の乾燥期に灌水及びビニールトンネル等により収穫をもっと早めることが出来るものと思われる。

品種的にはグレートレックス54号が高い収穫率を示したが供用品種数が少く今後の検討を要する。

以上春・夏・秋のレタスの播種期について検討し、それぞれ結果を得たが、これに基づいて播種期と収穫期との関係を図示すれば第1図に示すようになる。なお、冬期間の収穫はハウスあるいはトンネルの栽培によって可能であると思われ今後検討される問題であろう。



第1図

長芋栽培の簡易化に関する研究

高 井 隆 次・*佐々木 正三郎

(園試盛岡支場)

長芋の生産は、岩手県・青森県にわたる南部地方を中心にした東北地方が、わが国における主要産地を構成しており種芋の生産を含めてその栽培面積は大きい。その

栽培法は一般に種芋生産に2年、長芋生産に1年、計3年の長年月を費やすために時間的に甚だ不経済である。また岩手・青森両県に生産されている種芋は、いわゆる南